

平成 18 年度 第 5 回小牧市行政改革推進委員会会議録

1 開催日時

平成 19 年 2 月 13 日（火）
14 時 00 分から 16 時 00 分

2 出席者

（推進委員会委員）

稲垣孝子会長、住田邦久委員、森 勝昭委員、
金子和夫委員、小島秀五委員、末松雅彦委員、
肥田野良政委員、後藤久貴委員、萩原聡央委員

行政改革対策委員会委員、事務局

3 議題等

第 4 次小牧市行政改革大綱への提言書（案）について

4 会議資料（配布した会議資料名）

第 4 次小牧市行政改革大綱への提言書（案）

5 会議経過

- ・ 会議要旨については別添のとおり。

平成18年度第5回小牧市行政改革推進委員会会議録要旨

平成19年2月13日 午後2時00分～午後3時10分

市役所本庁舎4階 第4会議室

(事務局)

定刻になりましたので会議を始めさせていただきます。
はじめに会長より、ごあいさつをいただきます。

(会長)

前回、第4回の推進委員会では、第4次小牧市行政改革大綱の項目(案)についてご審議いただきました。これを基に、市で第4次小牧市行政改革大綱(案)が作成され、意見募集が行われたと聞いております。

当推進委員会も、今回の第5回をもちまして今年度最後となります。第4次小牧市行政改革大綱への提言書としてとりまとめが出来ますよう、各委員のそれぞれの観点から忌憚のないご意見等をいただきますことをお願いいたしまして、挨拶といたします。

(事務局)

ありがとうございました。本日、山本委員、岡田委員につきましては、欠席の連絡をいただいております。

また、会議開催にあたりまして、傍聴者が1名おみえになっておりますのでご報告いたします。それでは、これからの議事の進行について、会長にお願いいたします。よろしく申し上げます。

(会長)

それでは、会議を進めさせていただきます。議題 第4次小牧市行政改革大綱への提言書(案)について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

(資料：第4次小牧市行政改革大綱への提言書(案)について説明)

(会長)

事務局より、第4次小牧市行政改革大綱(案)の市民からの意見募集を実施された結果、市民からの意見は寄せられなかったという報告がありました。

意見がなかったというのは、残念ではありますが、この推進委員会におきまして十分審議され、市民の代表である各委員から出された意見を取り入れ

た行革大綱（案）であったことも理由の一つではないかと思えます。

この行政改革推進委員会の役割の一つとして、第4次小牧市行政改革大綱への提言を行うこととなっており、今回の資料は、この行政改革推進委員会から市長への提言書の案でございます。

今までのこの推進委員会での経緯を踏まえまして「はじめに」のページが新たな内容となっている以外は、前回までの委員会でご承認いただいているものであります。

したがいまして、提言の内容につきましては、再度のご確認を頂くということをお願いいたします。各委員からのご意見等、ご発言をお願いいたします。

（萩原委員）

先ほどの報告で、この提言書は市長へ提言するということですが、それはすなわち市民に対して提言するという事はないので、大綱だけでなく、はじめに（案）も文体は「である調」でいいのではないのでしょうか。

（事務局）

大綱に関しましても、市長に提言する際は「である調」ですが、今後市民の方へ公表する際は「ですます調」へ変更するよう考えております。加えて、このはじめに（案）は委員会を代表した委員長から市長へ提言するという形式をとらせていただいておりますので、あえて「ですます調」で表現しました。

（金子委員）

大綱は3つの柱で、第3次行革大綱と同じ形式になっているようです。今回の大綱の流れとしては、限られた行政資源のもと質の高いサービスを提供する、そして簡素で効率的な行政システムを構築する必要がある、とあります。今後市民に対しこの行政改革を訴えるならば、まず、行政システムを構築するとし、それからサービスを提供する、という流れがわかりやすいのではないのでしょうか。

小牧で何が一番求められているのか、それを考えると、2、3番目の柱が重要であるのに構成として後にきていると思われれます。まずは根本的に徹底的に財政基盤を整えてから、市民にサービスを提供するという流れにしてはどうでしょうか。

（企画部長）

どちらが先かというポイントについてですが、第3次行革の流れを引き続いてやっております関係上こういう流れとなっています。もちろん、委員の

方々のご意見についても検討させていただきたいと考えております。

（金子委員）

全部の項目が同じ比重で述べられているので、非常にわかりにくい内容となっているように感じます。以前にも申し上げましたが、この行革では何に重きを置いているのか、もう少しこの大綱案で見せていいのではないのでしょうか。そうすることで、市民もはっきり行政改革を認識できると思います。

（末松委員）

市民は市の財政状況をどういう目でとらえているかを考えてみると、裕福である、潤っていると思っているのではないのでしょうか。今後どんな課題があるかなど、感じていないのではないのでしょうか。横たわっている問題や課題を明確に示し、安易な気持ちにならないよう引き締めることが大切ではないのでしょうか。

市長も、これからは地域のことは地域でお願いすると、明確に言われています。そのために市民協働を積極的に進めて行くといわれますが、市民協働を進めるに当たって、何が問題かを把握し、行政改革の推進項目としなければならぬと思います。

（肥田野委員）

今回の大綱では小牧市小牧市とたくさん出てきますが、これを他の市名に置き換えても通用してしまう気がします。そこが少し残念でした。最初の推進委員会で「小牧らしさ」を提案しましたが、そこが少し弱かったのかなと思います。しかし、今後推進計画で独自性が出せればいいのではとも思います。

先ほどパブリックコメントで1つも意見がなかったという報告がありましたが、行政の皆さんはどう捉えていらっしゃるのか教えていただきたいと思います。先日の選挙の投票率が前回選挙から上がっており、市民意識は高いのではと思っていましたが、今回意見が1つもなかった。大綱の中でも公正の確保や透明性の向上とあり、パブリックコメントの推進がありますが、今後どのようにパブリックコメント制度を活用されていくご予定でしょうか。

（事務局）

パブリックコメント制度につきましては、実施要綱を策定し、本年1月1日から全庁的に取り組み始めたところであります。

（企画部長）

意見が1つもでなかったことについてですが、市民の関心の低さ、市のPR不足等、いろいろな要因が考えられると思います。今後いかにパブリックコメントを周知し、活用するのか、今後は今回の結果を参考にしながら、検討していきたいと考えております。

(住田委員)

提言としては、大概どの市においてもこういう形で出てくるのかなと私は理解しています。ただし、今後は、何をどこまでいつまでにやるのか、について、数値化できるものは数値化してほしいと思います。推進計画で是非実践していただき、きちんと目標を持って当たってほしいです。

また、チェック機能について、外部を入れてチェックを厳しくやっていくのが必要ではないかと感じています。

(会長)

他にご意見はありませんでしょうか。

おおむね意見も出たようですので、議題 第4次小牧市行政改革大綱への提言書(案)についてはこれでよろしいでしょうか。

それでは、第4次小牧市行政改革大綱への提言書については決定とさせていただきます。委員の皆様ご協力ありがとうございました。

以上で本日の議題は終了しました。

それでは、次第のその他に移らせていただきたいと思います。事務局の方から何かありますか。

(事務局長・企画部長)

提言書が無事に取りまとめられましたことに対しまして、委員のみなさまに、事務局より一言お礼を申し上げます。各委員からいただきましたご意見、ご要望を十分に踏まえさせていただき、新たに策定いたします行政改革の推進に努めてまいりたいと考えております。

(事務局)

ありがとうございました。事務局からは2点、説明をさせていただきます。

まず、今後のスケジュールについてご説明いたします。

今回のご決定いただいた提言書の市長への提出ですが、後日、推進委員会を代表して稲垣会長から市長へ提出いただくことでお許しをいただければと考えております。

この提言書を受け、市職員による行政改革対策委員会及び行政改革推進本部会議を経て、第4次小牧市行政改革大綱とその推進計画を3月中には決定

し、広く市民に公表していきたいと考えております。

次に、もう一つお配りしております「参考資料」第4次小牧市行政改革推進計画一覧（案）についてご説明いたします。

この推進委員会で各委員からいただいた意見を踏まえながら、現在、第4次小牧市行政改革に取り組む予定の推進計画（案）を各部署で検討しておりますが、中間報告として項目を一覧にしました。

この推進計画（案）につきましては、第4次大綱の決定に併せて策定する予定です。

次回の推進委員会は新年度になりますが、第4次行政改革大綱の推進計画の詳細について改めてご説明させていただきます。

（会長）

ありがとうございました。事務局からの説明につきまして、委員の皆様から質問等はございませんか。

（末松委員）

この推進計画一覧についてですが、これはこれから委員会で意見を出して、最終とりまとめをやっていくということによろしいですか。

（事務局）

現在、担当部署で詳細な計画書を作成中です。本年3月には、大綱とともに、推進計画書の最終的な決定を行います。新年度始まって早い時期に、本委員会において詳細を説明し、その後の進捗状況等を管理していただくという形を考えています。

（末松委員）

この推進項目が一番肝心です。この内容について、委員会から意見を述べる場があるかどうかを聞いたかったのですが。

（事務局）

これまでの議論を反映させるよう、ここにあります各部署の行政改革対策委員が、担当部署に持ち帰って検討させていただいております。

（末松委員）

行革推進計画一覧（案）を見る限りにおいては、私たちの意見がどう反映されているのかよく分かりません。全てが反映されるとは思っていませんが、私は、市民活動団体の代表としてこれまで意見を述べさせていただきました

が、推進項目に採用されなかったら、参加した意味がありません。

特に、個別の協働事業の内容より、協働のための障害をいかに取り除くかの取り組みが大切ではないでしょうか。それが行政改革ではないでしょうか。

（企画部次長）

NPO との協働推進事業だとか、この一覧の項目だけでは具体的な内容がよくわからないというのはおっしゃるとおりであります。また、行政の抱える問題点はまだまだあろうかと思えます。

今具体的に申し上げますと、職員と NPO との協働ガイドラインを作成していこうという目標が一つあります。また、NPO の育成等支援し、将来的には公共サービスの新たな担い手として、NPO をお願いをしていこうと検討しています。

（末松委員）

市民活動ネットワークでいろいろやってきて気付いてきたのですが、活動していく上で必要なことは、団体の育成支援、地域行政の見直し、スムーズに行く条件整備であり、それを通り越して項目名にあるように事業といっても難しく、地域によっては地域活動は進みにくいのです。

（企画部長）

今後、行政と市民の方との結びつきは様々な分野で発生してくると考えられます。そのため、各部署においてもそれぞれ推進していき、それに関して何らかの形で推進計画に盛りこんでいきたいと考えています。今後、具体的にいつごろ何をやっていくのかということについて、推進計画の完成したものを皆さん方にお見せしていきます。

（末松委員）

課題を解決する手法として、実態を調べたり、今おっしゃられたことは非常に重要であると思えます。各部門、十分に検討し、実践していったほしいところです。よろしくお願いします。

（森委員）

市民代表として意見を述べさせていただきます。

パブリックコメントで意見がないというのは、やる気がないのか、聞く気がないのか、やり方が悪いのか、いろいろ考えられるでしょう。端的に言えば、パブリックコメントの推進とあるが、このままでは 4 年後も 5 年後も今後も意見はゼロでしょう。

大綱に書いてあることをどう実施していくのかが重要です。自分でも意見を出してくれないかと何人か知人に言ってみましたが、あの綱目を読んで、一体何を言えばいいのか、そんな暇はどこにある、と言われてしまいました。それでも結果的にゼロという件数はどう考えても腑に落ちません。

提言書の内容は、もう決定してますので意見をいうつもりはありませんが、事務局の方の報告で、推進計画の項目は新規・継続合わせて50件とありました。継続とは、第3次行政改革からの継続とのこと。これは、過去5年間やってきて、出来上がらないからもう一度やるということですか。こういう悠長なことをいって、やっていけるのでしょうか。私は今回の行革で対象となるのは、全て新規項目だと思っていました。委員や市民の意見からこういうことを参考にして、こういう項目にしました、というものにすべきではないのですか。市民代表としてここに来ている立場として、これは理解しかねます。せめて継続項目はもう少し絞って、数値は難しいものもあるが具体的な目標を市民が見て分かりやすく示してもらいたいです。

(住田委員)

私も民間で勤めていた頃、毎年行動計画書を作成し提出していました。ここでは具体的な数値目標がなければ会社は受け入れません。いつまでにやるのか、納期を決めることが大事です。いつまでも継続というのは問題でしょう。どのくらいをいつまでにやるかを示してほしいです。

(肥田野委員)

森委員の意見と同じで私も残念に思います。私はこの委員会に4回出席してきましたが、この大綱の提言書をつくるために集まったつもりはありませんでした。むしろこの推進計画書の項目1つ1つを考えていきたかったのです。

しかし、この推進計画は3月中に決定され、4月から実施されるという話です。この項目は、スタートしてからどれだけの柔軟性を持っているものなのか確認したい。

(事務局)

今回の委員の皆さんの意見も取り入れながら、3月中には推進計画を策定し公表していきます。その具体的な内容については、柔軟性をもって対応していきたいと考えています。

(末松委員)

市民活動ネットワークを代表して意見を言わせていただきます。

今、市民活動団体は、皆苦勞しています。

現状では、市民の多くは退職後にボランティア活動や市民活動を真剣に考えている人は極めて少ないと思います。NPO初級講座をやっても、人が集まらない。市民活動団体としては会員確保もままならない。地域リーダー(区長など地域をリードする立場にある人)の温度差も激しい。区長をはじめ区の役員は1年でごっそり代わってしまうので、市民活動への理解も進まず、中長期的な取り組みなどできるはずがない。

熟年、団塊の世代に期待するところ大ですが、今日ご出席の行政の幹部のみなさんで、定年後に市民活動やボランティア活動をやろうと決めておられる人は何人お見えですか。過去にボランティア体験がない人は、想いはあっても、実行の第1歩が踏み出せない。小さいうちからボランティア活動を体験しておれば、何の抵抗もなくできるのですが、実態は、今申し上げたとおりで、みんな苦勞しております。市民活動をスムーズに進めるための条件整備が不可欠です。

(後藤委員)

行政側の意見、委員の方々の意見を聞かせてもらい、我々の業界と似ていると感じています。何かを大きく変えていこうとすると、外部の評価が必要となってくるわけで、組織の内部だけでは限界があります。

提言として、この推進計画書を評価するチームをつくり、1年ないし2年、内部ではなく外部の目で評価してもらおうということを実施してほしいと思います。現状においては、やったことを見直して次に生かすという作業が欠けています。これはもう過去の人がやった計画だからしょうがない。次はこれをやろうという風になっているのではないのでしょうか。誰が責任を取るかが曖昧です。見直して次に生かしていこうと建設的な話し合いを進めていくといいのではと思います。

(事務局)

外部の目で評価をとという意見をいただきました。市としては、この推進委員会が、新年度以降はその推進計画書を市民の目、外部の目としてチェックしていただき、進捗管理していただくものと考えております。

(小島委員)

推進計画の一覧であります。小牧市民の身近な問題があがっていると思います。これからは市民に投げかけ、少しでも市民の声を吸い上げて生かしていただくということに重点を置いてやっていただくのが重要でしょう。

(企画部長)

数値目標は出来る限り掲げていきたいと考えておりますが、中には数値化できないこともありますのでご了承くださいたく思います。

また、継続事業が多いとのご指摘がございましたが、継続する事業の中には第3次の目標は達成したけれども、さらに高い目標に向かって引き続き取り組んでいかなければならないものも含まれていることをご了承いただきたいと思ひます。

市民活動が重要であるのも委員おっしゃるとおりであり、ねばり強く市民の皆さんとともに努力していきたく感じています。皆さんの意見を少しでも反映できるよう努めます。

(会長)

その他、よろしいでしょうか。

それでは、全体を通じて何かございましたら、ご発言をお願いします。なければ、本日はこれで終了といたします。

会議を終了するにあたり、一言みなさまにお礼を申し上げたいと思ひます。昨年8月の第1回推進委員会以降、今回を含め5回の会議において、行政改革に関して、毎回時間を延長する充実した議論となりました。

会長をお受けした当初は、その重責に不安を感じておりましたが、委員の皆さんの行政や行政改革に関する高い見識や豊富な知識に支えられ、率直に意見を交わすことができ、安心して会議を進めることができました。

皆様方のご努力、ご協力の結果として、ここに提言書を取りまとめることができました。委員の皆様ありがとうございました。今後も、推進計画について、来年度の推進委員会において皆様とともに意見を述べていきたいと思ひます。

それでは、これもちまして、第5回小牧市行政改革推進委員会を終了します。ありがとうございました。